

# 司書教諭課程「情報メディアの活用」における “情報メディア”の種類に関する一考察

今 村 成 夫

## 要旨

司書教諭講習の授業カリキュラム中にみられる、“情報メディア”が表す範囲について、“学校図書館メディア”との関連なども考慮しつつ考察を試みた。司書教諭講習のカリキュラム表や、実際に出版されているテキスト、対応する授業のシラバスに出現する用語について、複数のサンプルを対象に定性的に分析した。また、新聞、雑誌、図書、さらには web 上で情報メディアがどのような文脈で用いられているかも、定性的に調べた。概念上は、学校図書館メディアの下位概念が情報メディアであり、情報メディアは、主に、いわゆる ICT（情報通信技術）に関連するメディアを指し示しているものであろうことが推測される。

## 1. はじめに

『学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について（通知）』<sup>1)</sup>の別紙『司書教諭講習科目のねらいと内容』<sup>2)</sup>には、司書教諭講習科目 6 科目のねらいと内容が提示されている。そこで用いられている用語の中に、“情報メディア”と“学校図書館メディア”、“メディア”、“視聴覚メディア”などが見られる。この“情報メディア”と“学校図書館メディア”の関係や、意味的な違いはどのようなものであろうか。この通知の中では、これらのふたつの用語の違いは、具体的に説明されておらず、曖昧なままである。人に

より解釈に差違が生じやすいものと思われる。実際に授業を展開するにあたり、こうしたいくつかの科目間での用語の使い分けや講述すべき主題範囲を検討する上で迷う場合がある。多くの講座担当者がそうした状態の中で、他の科目のカリキュラム展開の状況を勘案しながら、授業計画や教案の立案をおこなっているものと思われる。しかし、こうした用語の意味の違いや使い方について検討している文献は、みあたらない。

本稿では、司書教諭課程科目「情報メディアの活用」と「学校図書館メディアの構成」の授業展開にあたり、“情報メディア”と“学校図書館メディア”のあらかず主題範囲について、文部省省令通知中の記述、そのカリキュラムに沿って編集されたこれらの授業向けテキストに見られる主題について分析した。さらに、一般の図書、新聞、雑誌、web上のサイトでの“情報メディア”の使用状況なども参照しつつ、一考察をこころみた。

## 2. 情報メディアの活用に関連する資料にみられる “情報メディア”の意味範囲

### 2.1. “用語情報メディア”の意味

はじめに辞書で“情報メディア”で調べた。しかし、「広辞苑」(第五版、岩波書店、2009)や「大辞林」(第三版、三省堂、2006)等を参照しても、“情報メディア”の用語は掲載されていなかった。

### 2.2. 司書教諭講習に関する省令通知にみられる用語“情報メディア”

つぎに司書教諭講習に関する省令通知の記載内容について確認をした。

1997年の学校図書館法の一部改正に際して、文部科学省より発行された省令通知<sup>1)</sup>には、「司書教諭講習科目に関する事項(第3条第1項関係)」の中で、「情報メディアの活用」、「学校図書館メディアの構成」が列挙されている。さらに、同通知に添付された『司書教諭講習科目のねらいと内容<sup>2)</sup>』には、以下のような記述がみられる。

表 2. 2. 1 『司書教諭の講習科目のねらいと内容』<sup>1)</sup> に示された “情報メディアの活用” の科目のねらいと内容

情報メディアの活用(2単位)	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む）</li> <li>2. 情報メディアの特性と選択</li> <li>3. 視聴覚メディアの活用</li> <li>4. コンピュータの活用・教育用ソフトウェアの活用・データベースと情報検索・インターネットによる情報検索と発信</li> <li>5. 学校図書館メディアと著作権</li> </ol>
----------------	----------------------------------	--

また、同じ司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」のねらいと内容については、同じ別表 2 に、以下のような記述がみられる。

表 2. 2. 2 『司書教諭の講習科目のねらいと内容』<sup>1)</sup> に示された “学校図書館メディアの構成” の科目のねらいと内容

学校図書館メディアの構成(2単位)	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校図書館メディアの種類と特性</li> <li>2. 学校図書館メディアの選択と構成</li> <li>3. 学校図書館メディアの組織化・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説・件名標目表の解説・目録の意義と機能、日本目録規則の解説・目録の機械化</li> <li>4. 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置</li> </ol>
-------------------	--------------------------------	---

この表に示されている単元から、“学校図書館メディアの構成”では、学校図書館が収集するメディアの種類と特性、さらには、それらの“学校図書館メディア”の収集、組織化（整理）や配列のプロセスについての単元がみられる。いわゆる資料の特性に関する単元と資料組織法に関する単元が中心である。ここには、“情報メディア”という用語は、使われていない。

これに対して、“情報メディアの活用”では、“情報メディア”の種類と特性、およびその選択についてがひとつの単元となっている。そしてそれにつづき、

視聴覚メディアや ICT（情報通信技術）に関わるメディアに関する単元と学校図書館メディアの著作権に関する単元が見られる。この授業の中では、「学校図書館メディア」という用語は、ここではじめて出現している。視聴覚メディアは、「情報メディア」とともに並んで表記されている。なお、視聴覚メディアという用語も、学校図書館メディアの構成の表中には見当たらない。

「情報メディアの活用」では、コンピュータやソフトウェア、インターネット、データベースは、「情報メディア」「視聴覚メディア」とは異なる別の単元として記載されている。「情報メディア」の、より具体的な種類や内容については、この表からは、はっきりわからない。

### 2.3. 「情報メディアの活用」授業シラバスにおいて取り上げられた主題

それでは、司書教諭課程の実際のシラバスでは、どうなっているであろうか。web へ掲載された大学の「情報メディアの活用」の授業シラバスの中から任意の 20 件を選択し、授業の概要・目的・到達目標と、授業計画欄において使用されている用語をしらべた。登場した重要な用語を以下の表 2.3.1. にキーワードとして列挙した。なお、シラバスにより表現のゆらぎや同義表現なども見られた。それらについては、任意のひとつの用語に統一整理して示した。また、表中で用語の配列順番には、特段の意味はない。

3.1. にキーワードとして列挙した。なお、シラバスにより表現のゆらぎや同義表現なども見られた。それらについては、任意のひとつの用語に統一整理して示した。また、表中で用語の配列順番には、特段の意味はない。

表 2.3.1 授業「情報メディアの活用」シラバス記載事項の例（抜粋）

シラバスで取り上げられていた話題
メディア、情報メディア、電子メディア、デジタル・ネットワーク、文字、活字、印刷、コンピュータ、コンピュータシステム、ネットワーク、web、サイバースペース、ネット、PISA、調べ学習、生きる力、情報リテラシー、情報活用、情報活用能力、特別支援教育、情報検索、文献検索、コンピュータ検索、視聴覚メディア、情報、再現率、精度、論理演算子、データベース、オンラインデータベース、オフラインデータベース、デジタルアーカイブ、サーチエンジン、目録、目録作業、OPAC、リンク集、ポータルサイト、ゲートウェイ、レファレンスサービス、レファレンスツール、教科学習、探求的学習、電子端末、電子黒板、プレゼンテーション、フィンランドメソッド、ホームページ、SNS、情報整理、情報表現、ブログ、タグ、Eラーニング、著作権、知的財産、知的財産権、著作物、私的使用、引用、ベルヌ条約、デジタルの著作権、ネットワーク、web2.0、Library2.0、Education2.0、日本語処理、デジタル化、形態素解析、構文解析、統計処理、HTML、情報セキュリティ、パッケージシステム、アク

セシビリティ、パスファインダー、高度情報化社会、情報社会、知識基盤社会、マルチメディア、情報倫理、ネチケット、粘土板、学校図書館、図書館、半導体、CD-ROM、DVD-ROM、新聞、雑誌、図書、クリエイティブコモンズ、コンピュータウィルス、プライバシー、個人情報保護、有害情報、サイバー犯罪、フィルタリング、不正使用、衆知、愚知、学習の階段、テキスト（教科書）

さまざまな用語が見られるが、参照したシラバスの多くで、図書館に関する主題、ICT（情報通信技術）に関連する用語が共通に用いられている。シラバスから見るかぎり、「情報メディアの活用」の授業で取り上げている主題が、いわゆる ICT 関連技術に関する主題中心であることがうかがえる。

## 2.4. 司書講習向けテキストにみられる“情報メディア”と“学校図書館メディア”の範囲

### 2.4.1. 「情報メディアの活用」テキストにおける“情報メディア”

出版されている司書教諭講習向けテキスト「情報メディアの活用」<sup>4)~10)</sup>を対象に、その目次を対象にして、主題の種類を確認した。

文部科学省令に沿った主題は、もちろん、いずれのテキストにも含まれているが、それに加え、テキストによりさまざまな主題が記述されていることがわかった。しかし、ICTに関する用語が多くを閉めており、それら ICT に関する解説がその中心となっている傾向がみられた。

表 2.4.1 「情報メディアの活用」テキストにおける主題の例

高度情報社会、情報メディア、情報、電子メディア、アナログメディア、デジタルメディア、学校図書館、電子図書館、視聴覚メディア、文字情報、新しいメディア、電気、電子、放送系、パッケージ系、通信系、マルチメディア、視覚障害者、コンピュータ、パソコン、ネットワーク、通信ネットワーク、教育用ソフトウェア、情報リテラシー、ソフトウェア、データベース、情報の蓄積、情報の探索、情報検索、データベース構築、インターネット、ブラウザ、検索エンジン、情報発信、情報倫理、ネチケット、ネットワークモラル、著作権、知的財産権、複製、複写、貸し出し、鑑賞会、ビデオ、ホームページ、アナログメディア、デジタルメディア、テーブル、IT、学習情報センター、読書センター、ワープロ、表計算ソフト、Power Point、HTML、ユーザビリティ、アクセシビリティ、コンテンツ、調べ学習、利用案内、

学校図書館運営、CGI、インタラクティブ、ケータイ、URL、紙媒体、印刷、情報通信革命、デジタルメディア、蔵書検索システム、ドリル、チュートリアル、協調学習支援環境、強調学習、学習情報メディア、情報環境、情報基地、電子図書館、主体的学習、校内情報ポリシー、書写空間、教育メディア、読書、メディア専門職、高度情報通信ネットワーク社会、情報化プロジェクト、バーチャル・エージェンシー、メディアリテラシー、ナレッジマネジメント、コミュニケーション、マスメディア、本、収集、保存、管理、提供、利用指導、選定、運用、適正処遇交互作用、メディアミックス、情報公開、生きる力、総合的な学習、コレクション、電子メール、WWW、学習インフラ、簡易視覚メディア、音声メディア、映像メディア、放送メディア、学習活動、メディア利用、マニュアル検索、リンク集、インターネット犯罪、パッケージ型データベース、オンライン型データベース、LAN、TCP/IP、IP アドレス、ポータルサイト、学習情報センター、読書センター、情報共有、貸し出し管理、返却管理、

## 2.4.2. 「学校図書館メディアの構成」テキストにおける“学校図書館メディア”

今度は、同様に、出版されている司書教諭講習テキスト「学校図書館メディアの構成」<sup>12)~25)</sup>を対象に、その目次を対象にして、主題の種類を確認した。状況を表2.4.2. に示した。

これらのテキスト中でも、さまざまな主題がみられるが、こちらは、資料組織（収集、受け入れ、整理、装備、配架）の作業の流れや、目録法や分類法などのテクニカルな解説が中心である。

表2.4.2 「学校図書館メディアの構成」テキストにおける主題の例

学校図書館メディア、メディア、学校図書館、構築、収集方針、選択、組織化、整理、記述目録法、主題索引法、情報資源、管理、運用、特別な支援、児童生徒、目録、アクセス、展開、目録規則、記述、排列、コンピュータ、書誌ユーティリティ、図書分類、主題からのアクセス、分類法、件名法、Webcat、国会図書館、書誌データベース、雑誌記事索引、検索、施設、利用案内、PR、ファイル資料、逐次刊行物、流れ、蔵書構成、分類、件名、受入、装備、排架、学校経営、理念、教育的意義、発展、課題、教育行政、学校図書館、経営、司書教諭、学校司書、校内協力体制、研修、図書館相互協力、ネットワーク、学習環境、学校図書館メディア活用能力育成、学習過程、情報サービス、教員への支援、働きかけ、教育改革、情報社会、情報化、印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア、情報機器、コンピュータ・ソフトウェア、E-mail、プライバシー、レファレンス・トゥール、複本、資料選択、レビュースリップ、一般書誌、選択書誌、見計らい、直接購入、受寄贈、作成・交換、年間計画、更新、メディア、目録記入、アクセスキー、記述、タイトル、責任表示、版、通則、出版・頒布等に関する事項、形態に関する事項、シリーズに関する事項、注記に関する事項、

ISBN、標目、フィールド、レコード、ファイル、DBMS、書架分類、書誌分類、主題文責、NDC、補助表、標準分類法、相関索引、中間見出し、図書記号、別置記号、件名、件名目録法、ファイリング、ファイリングシステム、施設、備品、動線、レイアウト、サインシステム、コーナー、陳列、展示

## 2.5. 資料中にみられる“情報メディア”の使用状況

### 2.5.1. 図書にみられる“情報メディア”

書誌データベースを利用し、要旨も含めた書誌的事項中に“情報メディア”が出現する図書を検索した。検索には、「BOOK plus」（日外アソシエーツ；2014年10月30日現在）を利用した。

“情報メディア”が出現する部分をKWIC形式で表2.5.1.に示した。なお、ヒット件数は、849件となった。

結果には、いわゆるマスメディア関連と思われる資料も含まれているが、ICT関連の資料に関するレコードが多い。

表2.5.1 図書の書誌的事項等で使用されている“情報メディア”の例

<p>身近なコミュニティ・情報メディアからテクノロジー・企業・政治まで。</p> <p>それが「絆」ならインターネットで十分すぎる——現代情報メディアにおける他者の可能性に</p> <p>民族というものと現代性；超越者と他界；文化と身体；遊びと芸術；文化と情報メディア；「もの」</p> <p>『情報メディア白書〈2014〉』</p> <p>1部 情報メディア産業の動向（新聞；出版ほか）；2部 情報メディア関連データ（情報利用時間；情</p> <p>内戦と地域紛争の現実；情報メディアと文化的暴力；</p> <p>電話からインターネットへ（いろいろな情報メディア；「ビット」ってなんのこと？ ほか）</p> <p>情報検索サービスの理論と方法；各種情報源の特質と利用法（1）——情報メディア・文献を探す；</p> <p>第1章 新しい情報メディアと私たち——この本のねらいと使い方</p> <p>知識と資料、情報メディア、情報利用、学術コミュニケーション、</p>
---

## 2.5.2. 雑誌にみられる“情報メディア”

雑誌についても、雑誌記事のデータベースを利用し、書誌の事項中に“情報メディア”が出現する図書を検索した。検索には、国立国会図書館の雑誌記事索引（2014年10月30日現在）を利用した。

1326件ヒットした。検索結果の例を表2.5.2.に示した。タイトル中に“情報メディア”が出現する部分をKWIC形式で示した。

雑誌記事中では、“情報メディア”は、ICT関連に限らず、広くマスメディアなどのいくつかの意味でも用いられている傾向がみられた。しかし、学会誌の誌名や、機関の名称で用いられている例が多い。

表2.5.2 雑誌記事の索引で使用されている“情報メディア”の例

<p>大学大学院工学研究科電子情報メディア工学専攻・日本画像学会誌          中国の観光情報メディアにおける日本観光情報の伝達に関する一考察.          情報メディア学会 第13回研究大会.          地域活性化イベントにおける情報メディアの役割について          情報メディアセンター:東京裁判関係史料・軍事史学          情報メディアの普及とリテラシー概念の拡散.          女性・情報・メディアの30年          大学・短期大学図書館における「情報・メディア利用指導」報告.          保育環境マネジメントにおける情報メディアに関する考察:子どもの情報環境の現状と、そこから受ける発達影響について概説. 東京都市大学人間科学部紀要 / 東京都市大学人間科学部紀要編集委員会 編.. (5) :2014.3. 27-45 ISSN 2185-2464          情報メディアとしての本:ハングルで書かれた子どもの本と電子書籍を通して          映像情報メディア学会誌          画像情報メディア学会誌</p>
--

## 2.5.3. 新聞にみられる“情報メディア”

新聞記事データベースを利用し、記事中に“情報メディア”が出現する記事を検索した。記事データベースでの検索には、各新聞社が提供する新聞記

事データベース、すなわち朝日新聞記事データベース、毎日新聞記事データベース、読売新聞記事データベースを利用し、1980年代以降の記事を対象に検索をおこなった。(いずれも2014年10月30日現在)

検索結果をまとめて表2.5.3. に示した。“情報メディア”が出現するタイトル部分をKWIC形式で示した。

記事数は、読売新聞記事が488件、朝日新聞記事が8件、毎日新聞記事が、417件のヒットとなった。

記事の内容は、大多数が、大学や企業、研究機関などに関する記事で、“情報メディア”は、部署名などで使われていた。なお、少ないものの、ICTを指す用語としても使用されている例もみられた。

表2.5.3 三紙記事中で使用されている“情報メディア”の例

プロジェクションマッピングの勉強を続けてきた情報メディア学科3年の  
工科大の大学生と大学院生計8人と、情報学部情報メディア学科の  
大学芸学部情報メディア学科の学生が運営するバーチャルカンパニー（仮想企業）  
制作しているのは、同大工学部情報メディア学科の  
准教授（情報メディア）を中心とする研究チームが  
文理大情報メディア学部の  
大学術情報メディアセンター  
デジタル情報メディア産業への転換を目指しており  
市は災害や各種行政情報などを流す地域情報メディアとして活用する。  
双方向の情報メディアとして活用する「Q&A」方式による情報提供は、  
この部分は学校、この部分は他の情報メディアからと仕分けをしっかりとしなければ。  
昨年9月の市民アンケートで、「インターネットなどの情報メディアを今後利用  
したい」との回答広報誌に並ぶ情報メディアに位置づける  
【映像情報メディア事業部】事業部長（事業部長兼製造本部長）  
今年4月からスタートしたのは、情報メディア科学▽分子集合科学▽地球環境  
科学の3専攻6講座で、教員18人と学生6人が学ぶ。情報メディア科学では、  
総合情報メディアセンター長

社内の情報メディアを紙から電子にほぼ 100%変えた。

事業部長（家電・情報メディア事業本部）

情報検索のためのツール、新聞クリッピング、情報メディアの活用法などについてアドバイスする。

#### 2.5.4. Web サイト

検索エンジン Yahoo! Japan および google を用いて“情報メディア”で検索をおこなった。

検索されたサイトは、司書教諭科目「情報メディアの活用」のテキストに関して、および当該書籍の販売に関し掲載している書店のサイト、そして、大学の学部、学科、専攻等のサイトが大多数であった。“情報メディア”の用語は、“情報メディア学科”、“情報メディアセンター”など、学部名、学科名、専攻名、センター名、公的機関名などやその一部、もしくは、シラバス（情報メディアの活用）に関するページで使用されている例がほとんどであった。これ以外には、「情報メディア白書」（電通総研、2014年）の出版案内が検索される程度であった。“情報メディア”という用語が、社会一般ではまだ普及していないことがわかった。上記新聞記事のケースと類似した結果となった。

### 3. “情報メディア”のあらわす範囲と、 学校図書館メディアとの関係

以上のような検討の結果、下記のことから明らかになった。

- ① “学校図書館メディア”は、その表現のとおり、学校図書館で収集されるメディアであろう。一方、“情報メディア”という用語は、「学校図書館メディア」では取り上げられておらず、相互の関係は、カリキュラム上でははっきりしない。”視聴覚メディア”も同様であるが、こちらについては旧来、“視聴覚メディア”は、学校図書館における資料（情報資源）の一種（下位概念）として扱われ、取り上げられてきた。

従って、“視聴覚メディア”は、“学校図書館メディア”の下位概念であると判断できる。一方、「情報メディアの活用」の中で、“情報メディア”と“視聴覚メディア”とは、異なる單元上で併記されている。こうした点からみて、“情報メディア”も、“視聴覚”メディア”も、“学校図書館メディア”の下位概念であると理解できる。

- ② “情報メディア”と“視聴覚メディア”の関係は、文部科学省令<sup>1)</sup>からも、テキスト類<sup>4) ~ 25)</sup>から見る限り、上下の関係にはないように思える。なお、非図書資料として、両者の区別は明確にはできない。
- ③ “情報メディアの活用”は、科目「学校図書館メディアの構成」のカリキュラム中には、みられない。「学校図書館メディアの構成」のテキストにおいても同様であった。
- ④ “情報メディア”は、「情報メディアの活用」向けのテキスト中では、ICT関連のメディアととらえて記述されている。社会一般では、“情報メディア”は、ほとんど使用されていないが、じっさいに使用されている例を見る限り、ICTに関連する文脈上で使用されており、「情報メディアの活用」の実存テキストと同じ傾向である。いわゆるコンピュータとコンピュータネットワークの技術に関連する種々のメディア、たとえば、web サイト、電子メール、SNS、ブログ、プロフなどをはじめとするデジタル方式のメディアの総称と考えても良いようである。
- ⑤ “情報メディア”は、社会一般では、あまり使われていない。主に大学や研究機関、研究団体（学術団体）を表す名称の中で使用されている場合が多い。一部の分野でのみ使用される機会が多い用語であるといえる。学校図書館の世界でなぜこの表現が用いられるようになったかは、現時点では関連資料が十分収集できておらず、わからない。

- ⑥ 以上を考慮するならば、“情報メディア”は、近年急速に発展・普及しつつある電子メディア（デジタル方式のメディア）で非図書資料に属するものである。“視聴覚メディア”は、従来より図書館において収集されてきた非図書資料（アナログ方式のメディア）を指す用語として用いられていると考えられる。ただ、このとらえ方では、たとえば、VHS方式のビデオはアナログであるので、“視聴覚メディア”に該当し、DVは、デジタル方式であるから“情報メディア”に該当することとなる。学校図書館等での実務上では、明確な両者の区別はむずかしい。“情報メディア”と“視聴覚メディア”が、科目「情報メディアの活用」のカリキュラム中でそれぞれ単元として記されている理由は、区別区分が難しいという、このあたりの事情とも関連するのではないか。
- ⑦ ところで、文部大臣委嘱による委員会である「学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議」の報告「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について（報告）」<sup>27)</sup>では、これからの学校図書館職員に求められる役割・職務について、(1) 読書センター、(2) 学習センター、(3) 情報センターという三種類の機能が示されている。省令別紙2<sup>2)</sup>のカリキュラム表と合わせて考えるならば、(1)の読書センター機能は、科目「読書と豊かな人間性」と関連する主題、(2)の学習センター機能は、科目「学習指導と学校図書館」と関連する項目とみなされる。残りの(3)の情報センター機能については、その項の中に、「情報活用能力の育成のための授業における支援」が記されている。

情報活用能力については、文部科学省発行の『情報教育の実践と学校の情報化：新「情報教育に関する手引」』<sup>33)</sup>において① 情報活用の実践力、② 情報の科学的な理解、③ 情報社会に参画する態度の3つの要素から構成される“情報活用能力”をバランスよく育成することを目標とすると記されて

いる。こうした“情報活用能力”（情報リテラシー）は、知識基盤社会（「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す」<sup>34)</sup> 社会を指す用語）では、とりわけ重要となるものとされ、学校教育における重要な目標のひとつと位置づけられている。

「ねらいと内容」<sup>2)</sup>に明確な記述は見られないが、この情報活用能力（情報リテラシー）育成のための教育の支援は、司書教諭講習科目の中でも「情報メディアの活用」の中で取り上げられることが想定されているものと想像できる。もちろん、学校での教育活動全般における情報活用も含められるであろうが、「情報メディアの活用」は、学校図書館司書教諭によるそのような“支援”を想定したものであろうと思われる。学校図書館メディアの構成をはじめ、他の科目中ではみられない“情報メディア”という用語が、この科目の名称やカリキュラム中に現れる理由は、こうしたこととも関連するものではないか。

なお、“情報メディア”という用語が初めて使用された具体的な資料は特定できていないが、この用語がみられるようになった時期は、1990年代である。この時期には、IT（情報技術）という用語が社会において使用されていた。このITを利用したメディアを、ITを意識して“情報メディア”と表現した可能性がある。

「学校図書館メディアの構成」では、学校図書館が収集するすべての資料（すなわち学校図書館メディア）を対象に、その情報管理方法について取り上げ、一方で、「情報メディアの活用」では、情報活用能力の育成を視野に、情報社会（知識基盤社会）の中で日増しにその重要性を帯びてきている、ICT関連のメディア（情報メディア）を中心に、とくに非図書資料について、その学校図書館における活用をテーマにしているものと考えれば、両科目の棲み分けやバランスも成り立つと思われる。

## 4. “情報メディアの活用”における 「情報メディア」の主題範囲

前章での検討により、情報メディアが表す主題範囲を、整理することができた。

しかし、この点について、まだ検討が必要な事項が残されている。学校図書館の場合には、公共図書館などの他の館種の図書館では収集される例が少ない資料がみられる。その学校や他の学校で教員の手により自製された教材類である。Webの世界でコンテンツなどと称されるデータ形式のものなど、情報メディアへ帰属できると思われるものも少なくない。さまざまな形式、形態のものがみられる。一方で、社会においては常用されているが、事務用は別として、学校や学校図書館での教育プログラム上では使われる事の少ないメディアもある。非図書メディアの種類は、多い。具体的にどのようなメディアが情報メディアの範疇に帰属できるかを、さらに検討する必要がある。

なお、前章の①で言及したように、“情報メディア”が“学校図書館メディア”の下位概念であるのであれば、「学校図書館メディアの構成」の中で、“情報メディア”についても触れるべきではないか。その点も付記しておきたい。また、学校の領域では、これ以外にも、教育メディアなど、さまざまな用語も使用されている。そうした用語と、司書教諭講習における用語との関連についても、どこかで取り上げる必要があろう。

### 引用文献・参考文献

- 1) 『学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について(通知)』(文初小第 80 号) 文部省初等中等教育局, 1998
- 2) 『司書教諭の講習科目のねらいと内容』. 司書教諭講習規定の一部を改正する省令について (通知) 文初小第 80 号 別紙 2. 文部省初等中等教育局, 1998
- 3) 『司書教諭講習科目における「情報サービス」および「情報検索」主題の取扱い: テキストの分析にもとづく一考察』. 大正大学研究紀要. 第 95 号, 2010

- 4) 「情報メディアの活用と展開」. 中山伸一編著; 志村尚夫, 天道佐津子監修. 青弓社, 2003 (学校図書館図解・演習シリーズ; 1)
- 5) 「情報メディアの活用」. 井口磯夫編, 古賀節子監修. 樹村房, 2008 (司書教諭テキストシリーズ; 05)
- 6) 「情報メディアの活用」. 渡部満彦 [ほか]. 放送大学教育振興会, 2000
- 7) 「情報メディアの活用」. 山本順一, 二村健監修. 学文社, 2006 (メディア専門職養成シリーズ; 5)
- 8) 「情報メディアの活用」. 新訂. 山本順一 [ほか]. 放送大学教育振興会, 2005
- 9) 「情報メディアの活用と展開」. 改訂版. 中山伸一編著; 志村尚夫, 天道佐津子監修. 青弓社, 2009 (学校図書館図解・演習シリーズ; 1)
- 10) 「情報メディアの意義と活用」. 井口磯雄 [ほか] 共著; 大串夏身編著; 志村尚夫監修. 樹村房, 1999 (学校図書館実践テキストシリーズ; 1)
- 11) 「情報メディアの活用」. 「新学校図書館学」編集委員会編. 全国学校図書館協議会, 2002 (新学校図書館学; 5)
- 12) 「新学校図書館通論」. 図書館教育研究会. 学芸図書, 1999
- 13) 『学校図書館の力 - 司書教諭のための 11 章』 渡邊重夫著. 勉誠出版, 2013
- 14) 『学校図書館メディアの構成』 新訂版. 北克一, 平井尊士著. 放送大学教育振興会, 2012
- 15) 『学校図書館メディアの構成』. シリーズ学校図書館学編集委員会編. 全国学校図書館協議会, 2010 (シリーズ学校図書館学; 2)
- 16) 『実践できる司書教諭を養成するための学校図書館入門』. 渡辺暢恵著. ミネルヴァ書房, 2009
- 17) 『学校図書館メディアの構成とその組織化』 改訂版. 志村尚夫監修編著; 天道佐津子監修. 青弓社, 2009 (学校図書館図解・演習シリーズ; 2)
- 18) 『学校図書館メディアの構成』 第二版. 山本順一; 二村健監修; 緑川信之編. 学文社 2008 (メディア専門職養成シリーズ; 2)
- 19) 『学校図書館メディアの構成』 改訂版. 高鷲忠美; 志保田務; 北克一編著. 放送大学教育振興会, 2005

- 20) 『学校図書館メディアの構成とその組織化』. 志村尚夫編著 . 青弓社, 2004 (学校図書館図解・演習シリーズ; 2)
- 21) 『学校図書館メディアの構成』小田光宏編. 樹村房, 2004) (司書教諭テキストシリーズ; 2)
- 22) 『学校図書館メディアの構成』. 山本順一; 二村健監修; ; 緑川信之編 . 学文社, 2002 (メディア専門職養成シリーズ; 2)
- 23) 『学校図書館メディアの構成』. 新学校図書館学編集委員会編. 全国学校図書館協議会, 2000 (新学校図書館学シリーズ; 2)
- 24) 『学校図書館メディアの構成』. 高鷲忠美, 志保田務, 克一編著. 放送大学教育振興会, 2000
- 25) 『学校図書館メディアの構成』志村尚夫編著; 石田嘉和〔ほか〕共著. 樹村房, 1999 (学校図書館実践テキストシリーズ; 2)
- 27) 「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について(報告)」。学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議。文部科学省初等中等教育局, 2014
- 28) 「これからの学校図書館担当職員に求められる役割・職務及びその資質能力の向上方策等について (報告のポイント)」。学校図書館担当職員の役割及びその資質の向上に関する調査研究協力者会議。文部科学省初等中等教育局, 2014
- 29) 「司書教諭養成科目『情報メディアの活用』『学校図書館メディアの構成』の教科書について。松崎博子, 柴田正美. 図書館界 64 (2), p136-141, 2012
- 30) 『学校教育と図書館司書教諭科目のねらい・内容とその解説』志保田務; 北克一; 山本順一編著. 第一法規, 2007
- 31) 『学校図書館概論』(図書館情報学の基礎 <14>) 渡辺重夫著, 勉誠出版 2002
- 32) 『司書教諭のための学校図書館概論 — 図書館が変わる・学校が変わる』 潟沼誠二監修; 清野隆; 吉田裕男; 潟沼潤著. 翰林書房, 2002
- 33) 『情報教育の実践と学校の情報化: 新「情報教育に関する手引」』文部科学省, 2002

- 34) 『「知識基盤社会」について』. 文部科学省 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryo/\\_icsFiles/afielddfile/2013/05/20/1265997\\_007\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryo/_icsFiles/afielddfile/2013/05/20/1265997_007_1.pdf) 2014年11月現在)
- 35) 『情報とメディア』. 佐伯胖 [ほか] 編. 岩波書店, 1998 (岩波講座演題の教育：危機と改革；8)
- 36) 『メディアと情報化社会』. 井上俊 [ほか] 編. 岩波書店, 1996 (岩波講座現代社会学；22)